

## 平成21年度第2回大井町総合計画審議会 概要

日時：平成22年3月3日（水）  
午前10時～正午  
場所：役場301会議室

出席者：熊沢清会長、植松清治会長職務代理、大澤一良委員、石井勲委員、橋本淑子委員、  
府川利之委員、大澤宏委員、香川恭崇委員、宇多澄子委員、石井律子委員、瀬戸二郎委員、  
小関哲哉委員、石井孝典委員、足立隆充委員  
事務局：鳥澤晴康参事、神保政義企画財政課長、湯川博之副主幹、立川悟主事、中川彰太（サーベイリサ  
ーチセンター主任）

### 1 開会

熊沢会長より開会のあいさつ

### 2 議題

#### (1) 大井町第4次総合計画の総括について

<事務局より第4次総合計画に係る主な取り組みについて報告。(参考資料1、資料1)>

#### 【意見・質疑】

第5次総合計画に継続していくものについて町の考えは。

継続していくもののうち特に大きなものとして、「役場北側の保留フレーム」と「いこいの里・相和」は継続していく予定である。

金子・吉原の区画整理を始めとして、積み残した事業があると思うが、進捗状況は。また、第4次では目標人口18,800人と設定したが、現実には、18,000人くらい。今後、第一生命の移転もあり、第5次では人口推計をどのように設定するかが大きな課題である。また、財政的な課題もある。

平成20年度までは把握している。事業規模の大小はあるが、事業本数ベースでおおよそ90数%が計画どおり進捗している。事業数は300を超えている。御殿場線を横断する水路や踏切の改良等も積み残し事業である。

事業本数での達成率ではなく、区画整理やいこいの里・相和整備構想、東西連絡道路等の重点施策での達成率が重要と考える。県としても観光圏をとるのか、東西連絡道路とどちらをとるのかという問題もある。また、いこいの里は当初の目的からずれているのではないかと考える。公園整備は進んでいるが、ほ場整備は難しい状態となっている。金額のかからない事業はできているが、大きい事業となると達成率は50%以下ではないかと考える。

相和地区の過疎化が始まっている。相和小の児童数が100人を切っていて、5年後くらいには70名くらいになると言われている。固定的な人口が増えないと過疎化が進む一方である。

大井町自治基本条例の中で自治会加入の原則があるが、入らない人もいる。転入時に自治会加入の話をしているのか。強制は難しいが、まとまりのある町になるためにも自治会加入は重要である。観光について、開成町ではアジサイ、松田町は桜、大井町では菜の花に取り組んでいるが、今年の菜の花は惨

めで恥ずかしい。近隣のように集客する力が必要と考える。

自治会加入の問題はこれからも続いていく課題だろう。観光については全てが中途半端になっている。2市8町を考えながら大井町としてどうやっていくのかを検討すべきだ。

ゆとりをもって取り組む必要があるのではないかと感じる。日本全体が意気消沈しているように感じる。日本全体の問題でもあり、政治や経済、技術面がそういった傾向にある。今はあまり派手に動かずに「継続は力なり」でやっていく持続時期ではないか。また、あえてマイナス面を強調しすぎないことも大切だ。

大井町は第一生命の進出からこれまで「田園都市構想」に沿ってまちづくりが進んできた。交通網等のアクセスについては第4次総合計画までで形ができてきた。合併がないのであれば、単独としてどのようなものを目指すか、あり方を考える必要がある。

大井町は分散型の商業となっている。国道255号を中心とした商業展開も難しい。金子吉原の区画整理で商業集積ができるのではと期待していた。

酒匂川2号橋の完成は事実としても、区画整理が頓挫しているから国道255号まで繋がるのは難しい。また、合併についての現状はどのようになっているのか。それが前提となってくる。

酒匂川2号橋の完成は22年度末の予定である。しかし、供用開始については現在調整中であり、町としては早期の供用開始を要望している。合併については今年3月までに研究・検討を行い、2市8町による合併の方向性を決めることとなっている。3月25日にその会議が開催され、今後、任意協議会を設置して更なる検討をしていくのかを決めるが、2市8町で温度差があるのは事実。ただし、これからも、さらなる広域連携を進めていく必要がある。

第4次を総括すると課題は多く残っており、第5次において対応が必要ではないか。

## (2) 大井町第5次総合計画の基本的な考え方について

<事務局より大井町における人口動態の特徴、人口及び就業状態の将来推計について説明。(資料2)>

### 【意見・質疑】

将来人口推計をみると少子高齢化の傾向が出ている。今後も人口が伸びていく状況ではない。第5次の方向性を決めていく上でも非常に重要なものとなる。

人口推計は難しい。第4次の目標人口は800人のギャップがある。第一生命移転の影響はあるだろうが、跡地利用や明るい材料があれば人口も増える。自然増は見込めないが、社会増はあり得る。区画整理は難しくても、縦貫道路が全線開通すれば交通量も増え、沿線の土地利用次第では人口が増えるのではないかと。この縦貫道路沿いの土地利用が第5次のポイントだ。

この人口推計は、このまま何も施策を講じなければ、という前提のもの。例えば、山北町では工業団地を整備して、定住化促進を進めている。このため、人口推計は高く見積もっている。もちろん町として施策を打っていく予定である。

用途地域区分の見直しを考える必要があるのではないかと。住宅施策を講じて定住ができるようにして、1万7、8千人の人口をキープできるようにする必要がある。

人口施策は重要で、人口は町としての最も基本的な指標と考える。人口減少対策をしていこうとすれば、財政的負担が大きくなる。また、人口をキープするとしたら、ハード事業が必要となる。その時は

財政出動を伴う。両面とも重要だが、どちらに重きを置くのかが課題となる。

「おおいゆめの里」やせせらぎ事業の現地に行ったことがあるが、全て中途半端と感じた。菖蒲園も同様である。事業が花開くまで継続していない。手をつけたものが実を結ぶようにして欲しい。また、何で事業推進されないのか町民に情報提供されていないので、理解できない。ソフト面で言えば、子どもが生き活きと過ごせるような学校や地域づくりが重要。最近子ども会に入らない子もいる。学校が荒れるのは地域の家庭力が落ちているからではないか。

最近の中学校は想像を絶するほど荒れている。先生が機能していないのではないか。

教育の集大成である中学がそうでは困る。大井町ぐらい幼・小・中学校等の整備がされているところはないと思っている。かつての良いとこ所と現在をいかに結びつけるか。青少年の健全育成を第5次のポイントの1つとすべきだ。

荒れている地域には人も寄りつかない。将来の子ども達が健やかに育てられなければ住民も町外に行って減ってしまう。

学校の先生は見回りをするなどしているが、結果に繋がっていない。地域力や家庭力をどう底上げしていくかが重要である。

<事務局よりまちづくり会議での意見概要及び第5次総合計画の概念図を説明。(資料3・4)>

#### 【意見・質疑】

自治会加入の問題について、現代は「個」だけでも生きていけると考える人が多くなっている。町の良さを集大成していく部分として、家庭力などを自治会単位で啓蒙活動をしていく必要がある。

子どもの話を聞いてみると、一人ひとり悪くない。最近の子どもたちは多くの不満を抱えているのではないか。また、自分勝手なことを言う人も増えている。新しい方を受け入れていくという地域の環境が必要ではないか。

子ども会の会長が回ってきたら会をやめる人が多い。自治会は地域として最も基本的な単位と考える。中学生とのふれあい活動をしているが、一人ひとりと触れあうと良い子が多い。こういった活動が必要だと思う。地域の行事への参加を学校の出席扱いにするなどの取り組みが必要ではないか。

マンションなどでは転出入が非常に多い。子ども会への参加は任意であり、入らない世帯が多くなってきた。子ども会への不参加も、自治会への不参加も一緒のようだ。子育ても町の総合計画のようにそれぞれの家庭が子育てに目標を持って取り組むことが重要ではないかと思う。

自治会長の業務量が最近多く、担い手がいない状況だ。総合計画となるとある程度夢を入れ込んだものとする必要がある。ただし、絵に描いた餅になってはならない。財政状況等を考えるとハード面は無理だが、絞り込みをしながらソフト面の充実が必要ではないか。人口増加は町の発展のバロメーターとは言えないが、ある程度は必要だ。少子化の時代に開成町は新しい小学校を建設する珍しいケースである。まちづくりの成果と考えられ、見習う点がある。

企業の地域への貢献の仕方はいろいろあるが、各企業は法人税という形で貢献してきた。景気の良いときは良いが、今後、町の施策を行うには財政的にも困難な時代となってくる。住んでいる人で支え合う必要がある。今後は、高齢者の活力をいかに活用し、町民が今まで町から与えられてきたものを、一

緒になって協働で取り組んでいくことが必要ではないか。

協働というのは、住みよいまちづくりのためには必要と考える。

これからは我慢の10年間と言える。国の借金はGDP比210%である。きれい事を並べてもだめだが、目標がないと我慢ができない。“人づくり”ということは、結局は「教育」ではないか。次世代を育てることは教育である。町立の学校については町として責任を持ってほしい。既に箱物はあるが、あとは魂をどう入れるかだ。

確かに、これからは我慢の時代となる。第4次総合計画まではハード面中心の時代であったが、これからは現実にあったソフト面中心へと転換する時代ではないだろうか。現実的な視点で計画をまとめていくことが重要ではないか。

### (3) その他

事務局より次回審議会は4月に開催し、月1回のペースで合計5回の会議を予定していることを説明した。また、次回の審議会において計画の素案を示すことをあわせて説明した。

以 上